

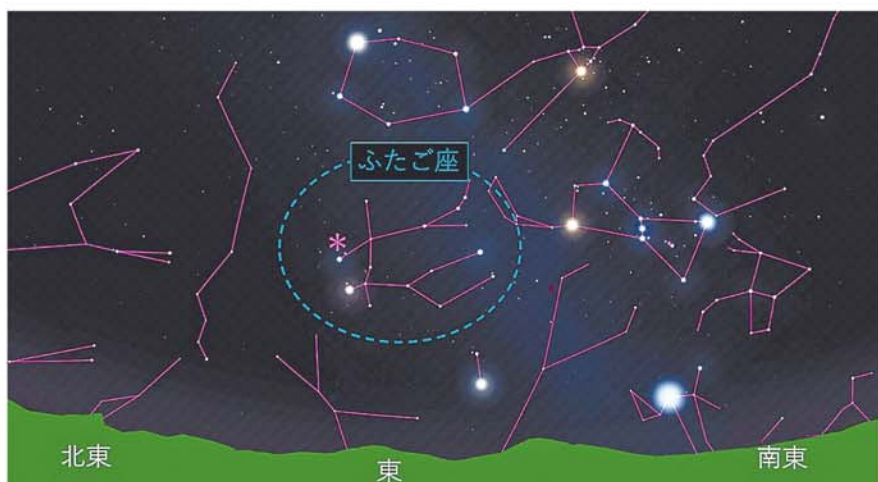
+

+

星空案内

山形大名誉教授 柴田晋平

〈802〉ふたご座流星群を見よう



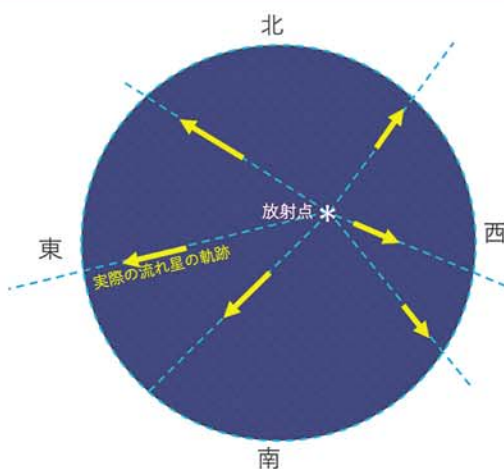
今年もふたご座流星群の年は月が出ていないため、時期がやってきました。今、流れ星がたくさん見えると

15日午前4時ごろ 極大に

予想されています。

図1は今晚夜9時ごろの

【図1】今夜、午後9時ごろの東の夜空



【図2】実際の流れ星の位置と放射点の関係

東の空です。すでに、ふたご座が見えています。先に昇ってくるのが、兄のカストルです。星座線を見ると分かるように胴長短足。一方、後から昇ってくる弟の

ポルクスは脚長がに股です。「*」印の部分が、ふたご座流星群の放射点と呼ばれる場所です。

12月15日午前4時ごろが極大と予想されています。というところは、14日夜遅くから明け方にかけて見ると良いこととなります。13日夜や15日夜も、たくさんではないですが、見えると思います。

流れ星が、空のどこに見えるか予想できればいいのですが、それはできません。流れた方向を逆にたどると、図2のようにふたご座に行き当たるといことだけが、はっきりしていて、実際に流れる場所は、どこか分からないのです。お願い事をする価値が、それだけあるということでしょう。

フェアトンという直径6センチほどの小惑星があります。この小惑星は、地球にぶつかるのではと思うほ

ど、地球のすぐそばを通る軌道で太陽の周りを公転しています。フェアトンが巻き散らかしたちりが軌道上にあり、地球がこの軌道近くを通過するこの時期に、たくさん流れ星が流れます。これがふたご座流星群の正体です。

宇宙航空研究開発機構(JAXA)では、フェアトンを調査する探査機の計画をしています。近くで撮影し、ちりを採取して分析します。どんな小惑星なのでしょう。

やまがた天文台

山形市の山形大小白川キャンパス内の「やまがた天文台」は、毎週土曜に星空ガイドツアーを開催している。時間は午後6時15分、同6時45分、同7時15分、小学生以上200円。問い合わせは「やまがた天文台」でネット検索、または023(6288)4050。

+

+